2026.10.24

主催　NPO法人 ふるさと東京を考える実行委員会

ふるさと東京

を考える実行委員会２５周年記念

次世代の子供たちのために東京湾を再生し、
日本の未来につなげるフォーラム

PROGRAM

CONTENTS

目次

P2　プログラム
P5　ごあいさつ

【ムーブメントの創出】
P7　東京湾再生を目指したフォーラム・シンポジウムの開催(2001年～)
P8　東京湾をきれいにする10万人署名活動(2001年～)
P9　「ふるさと東京再生」出版(2018年)
P10　東京湾再生を目指した海の絵画等コンクールの実施(2009年～)

【海水浴復活と里海まつり・夏】
P13　「海水浴」の復活(2012年～)
P14　海水浴復活に関する表彰(2014・15年)
P15　べか舟の復活(2009年～)
P16　里海まつり・夏(2010年～)
P17　「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」を東京湾再生推進会議に提出(2018年)

【ビーチクリーン】
P18　西なぎさのビーチクリーン活動(2017年～)

【海苔ワカメ養殖復活と里海まつり・冬】
P19　海苔ワカメ養殖の復活(2010年～)
P20　葛西海浜公園東なぎさで自生していた絶滅危惧種の浅草海苔の養殖に成功(2018年～)
P21　国立科学博物館「和食展」で当会の浅草海苔が展示された(2023年～24年)
P22　東なぎさ地形調査(2026年～)
P23　西なぎさで養殖した海苔の佃煮1000本を江戸川区の小学校に寄付(2024年～)
P24　里海まつり・冬(2010年～)

【二枚貝による水質浄化活動】
P25　里海里山連携プロジェクト(2016年～)
P26　本はまぐり稚貝放流(2010年～)
P27　二枚貝生息量調査の開始(2020年～)
P28　被覆網等による増殖実験を開始、被覆網内の二枚貝重量が数十倍になることを確認(2021年～)
P29　カキ天然採苗および養殖実験開始(2023年～)

【NPO漁師活動】
P30　定置網・釣りによる定期的魚類調査開始(2023年～)

【東京湾再生センター設立に向けて】
P31　西なぎさの「里海センター」建設へ
P32　「東京湾再生センター」の設立を目指しての活動経過
P33　葛西の海の生き物たちを展示した里海水族園開設(2024年～)
P34　東京湾再生に向けて、地域と共生するラムサール条約の提案

【むすび】
P35　「ふるさと東京を考える実行委員会」の今後の活動と課題
P37　東京湾をきれいで豊かな海に再生するため頑張ってきた役員の方々
P38　むすび

PROGRAM

プログラム

次世代の子供たちのために東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム
－NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会２５周年記念－

日時　10月24日　10：30－16：05
場所　葛西区民館 大ホール

【10：30－11：20】
1部　コンクール表彰
① 講演「葛西の海の今と昔」　関口理事長
② 未来へつなぐふるさとの海コンクール表彰

（休憩）

【13：00－16：05】
2部　25周年記念フォーラム
① 開会挨拶　関口理事長
② 都知事に10万人の署名提出
③来賓挨拶
④ 功労者表彰
⑤ 講演「『東京湾再生』に向けて、今後何を為すべきか」
　関口理事長
⑥ 活動紹介及びディスカッション
　テーマ別活動報告
　・海水浴の復活
　・里海まつり（夏・冬）
　・ビーチクリーン活動
　・里海里山連携プロジェクト
　・海苔・わかめ養殖
　・東なぎさ現況調査研究（東なぎさでの浅草海苔の養殖に向けて）
⑦閉会挨拶及び石笛演奏
　関口理事長・横澤和也

ふるさと東京

を考える実行委員会２５周年記念

次世代の子供たちのために東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム

主催　NPO法人　ふるさと東京を考える実行委員会

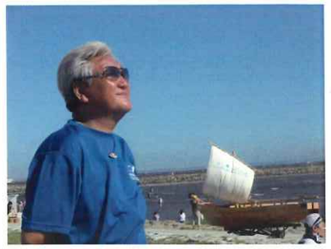
後援　国土交通省　・　水産庁　・　東京都　・　江戸川区





GREETING

ごあいさつ



私が東京湾再生を目指して「ふるさと東京を考える実行委員会」を立ち上げたのが２００１年、それから２５年が経過し、その間に東京都内湾での海水浴の復活、海苔養殖の復活など、様々な成果が出ました。

それらについては、私が２０１８年に出版した「『ふるさと東京』再生」に書かれており、その基本理念となるのが「環境資本主義」です。

人は経済優先の利便性を求めるばかりに、自然環境を破壊してきました。
僅かな海水温度の上昇さえ、様々な地球規模の気候変動に深刻な影響を及ぼします。

海を汚したのが私たち人間ならば、海を救えるのも私たち人間です。２１世紀は〈再生の世紀〉と言ってよいでしょう。人にとって、永遠に大切なものである水や空気を決して汚してはいけないのです。それを失ってまで便利さや経済的な豊かさを求めてはいけないのです。このままでは、「負の財産」を次世代の子どもに遺すことになります。１８世紀の中頃からの産業革命により発展した社会が遺した「負の遺産」は、環境破壊による地球温暖化、資源枯渇、食料問題などはグローバル化し、多様化多極化された問題となっています。地球規模の〈持続可能な社会〉を目指し、私たちは、失った環境を再生し、地球環境そのものを資本とする社会へと大きく転換すべきと考えます。

「環境資本主義」は、資源豊かな地球を守り、生かし、枯渇する地球を再生し、大きなバランスの上に立った営みに変わっていかなければなりません。
私たちの資本はなんであるか、その本質を顧みる必要があると思います。

大切な資本である海や森を再生することは、環境と共生する自然に働きかけて、直接、富を得る第一次産業〈農業、漁業、林業〉を、この国で復活させることです。

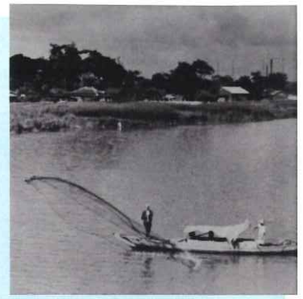
「『ふるさと東京』再生」を出版後、私が理事長を務めるＮＰＯ法人ふるさと東京を考える実行委員会では、環境資本主義の具体に向けて東京湾の再生に取り組んでまいりました。

この記念誌では、環境資本主義の実現のために具体的に行ってきた東京湾再生のための活動について紹介させていただきます。

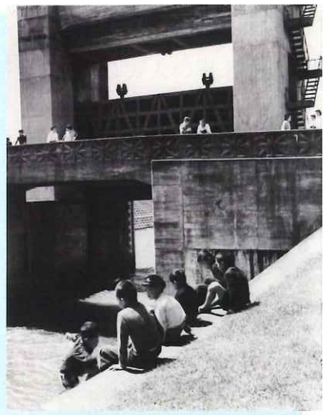
NPO法人　ふるさと東京を考える実行委員会

理事長　　関　口　雄　三

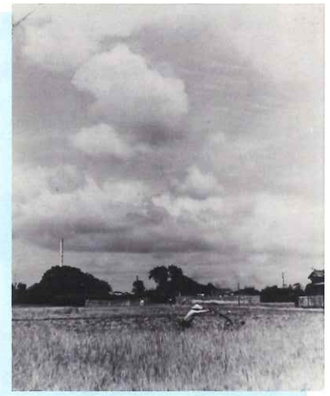




環境と芸術は等しく大切











MOVEMENT　ムーブメントの創出

東京湾再生を目指したフォーラム・シンポジウムの開催　(2001年～)

２００１年「ふるさと東京を考える環境フォーラム」
東京オペラシティホールにて１５００人の来場者を迎えて開催



オペラシティホール


水中写真家・中村征夫氏との対談


唱歌を歌うコンサート

２００３年「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」
日本科学未来館で東京湾に関する５６団体が集まり開催



発起人代表・関口雄三あいさつ


パネルディスカッション


ポスターセッション

２００９年「海水浴場復活シンポジウムー東京湾から発信するー」
タワーホール船堀・大ホールで東京湾の海水浴復活を目指して開催



コンクール表彰式



コンクール応募作品


シンポジウム風景

２０１８年「豊かで美しい東京湾を取り戻すシンポジウム」を開催



基調講演



パネルディスカッション

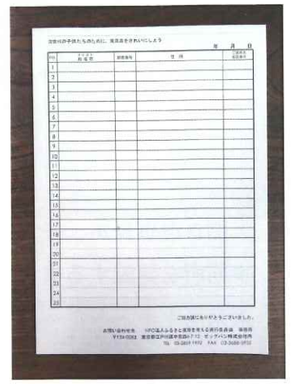

会場風景

東京湾をきれいにする１０万人署名活動　(2001年～)

２００１年、「次世代の子供たちのため東京湾を再生する」ことを目的に「ふるさと東京を考える実行委員会」を設立、初台のオペラシティに１５００人を集めて「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催、同時に「東京湾をきれいにする１０万人署名活動」を開始しました。

２００６年には、２万人の署名が集まり、これを東京都知事政務担当特別秘書に提出致しました。
その後も、地道な署名活動を継続し、２０２６年８月、ついに１０万人の署名を達成しました。

１０万人の署名は、本フォーラムにおいて、東京都知事に提出致します。


署名用紙
「次世代の子供たちのために、
東京湾をきれいにしよう」


2006年　東京都知事政務担当特別秘書に提出




海苔すき体験での署名活動



葛西の海の生き物ふれあい体験での署名活動

MOVEMENT

ムーブメントの創出

「ふるさと東京」再生

本当の豊かさとはなにか。
次世代の子どもたちに残し、伝えたいものー　　幻冬舎から出版　(2018年)

関口理事長が、子ども時代から地元葛西で建築設計事務所を開設するまで、そして多くの人に出会い、東京湾を子どもたちの泳げる海にしたいと、何かに突き動かされるように東京湾再生の活動を始め、実現に至るまでの道程を書いたものです。

自らの「ふるさと」である東京を再生させることを決断し、地元葛西で海水浴や浅草海苔養殖を復活させるなどの活動を紹介するとともに、ふるさと東京再生の意義を記載しています。

本の中では、「東京湾再生センター」設立の必要性も提案しています。



株式会社ベネッセコーポレーションの中学総合学力調査教材にも採用されました。

50年ぶりに海水浴場が復活
多くの人で賑わいました。



葛西海浜公園西なぎさでの海水浴
子どもたちの笑顔が溢れました。









東京湾再生を目指した海の絵画等コンクールの実施
(2009年～)

自然と芸術は、ともに「心の豊かさ」を育むものであるとの考えに基づき、ふるさと東京を考える実行委員会は、関口美術館と共催で海の絵画等のコンクールを２００９年から４回実施しています。２０２６年夏には、第５回目のコンクールを実施しました。











COMPETITION

第５回　葛西海浜公園・西なぎさ『未来へつなぐふるさとの海』コンクール

展示期間　2026.9.12(土)－9.20(日)

展示場所　関口美術館・東館（東京都江戸川区中葛西6-15-7）

審査委員

関口雄三	関口美術館・館主 NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会・理事長
関口枝芳	NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会・副理事長
寺石愛美	絵本作家
手塚貞雄	NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会・参与
山本　章	NPO法人ふるさと東京を考える実行委員会・監事

表彰　2026.10.24(土)

「次世代の子供たちのために東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム」1部

展示風景・審査風景











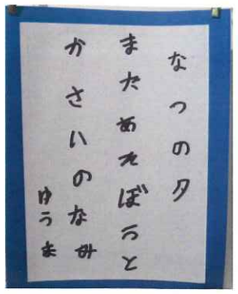
彫刻と実のなる木が並ぶ本館・庭



東館外観

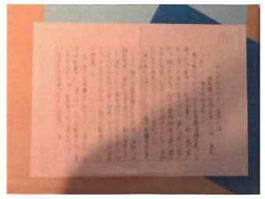
関口美術館　本館・東館

総体としてものを捉えられなくなった世の中に対し一石を投じようと作ったのが「生活美」を提唱したビッグバン株式会社であり、関口美術館です。
経済合理性の一面で、人は住みにくくなり、芸術家はものを作る豊かで大らかな環境を失いました。
2003年、関口美術館は「生活美と芸術家支援」をテーマに、地域の人の安らぎの空間となるべく開館。
本館は戦後日本を代表する彫刻家・柳原義達の彫刻をメインに展示、東館は企画展を開催しております。





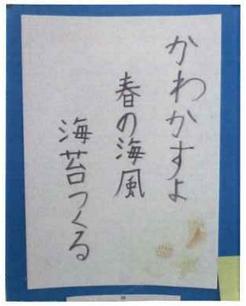










応募作品の一部　（絵画・工作・作文・俳句）

SEA BATHING

海水浴



海水浴の復活　(2012年～)

ふるさと東京を考える実行委員会の最初の目標は、東京湾再生の象徴となる「海水浴の復活」でした。

２００８年に「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を新聞発表し、２００９年には、国土交通省、環境省、東京都港湾局、江戸川区の後援を得て、「海水浴場復活シンポジウムー東京湾から発信するー」を開催し、さらに「葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験」を開始しました。

その後、東京都との交渉を重ね、２０１２年にようやく２日間の海水浴を実施しました。そして翌年の２０１３年には１３日間、２０１４年からは２０日間、２０１７年には３５日間とし、海水浴場の範囲も西なぎさ全面に拡大しました。

さらに、２０１８年からは子供たちの夏休み期間をすべてカバーできるように４３日間の実施となり、海水浴客数は毎年６万人前後となっています。

そして、２０２６年で海水浴開始から１５年目になり、延べ６６万人もの人たちが訪れています。



海水浴復活に関する表彰　(2014年・2015年)

首都圏で海水浴を復活させたことは、世界に誇れる事柄であり、地元江戸川区長、社会貢献支援財団、国土交通大臣など多くの表彰を受けました。


認定証

認定NPO法人
ふるさと東京を考える実行委員会 殿

貴団体の東京湾海水浴場復活プロジェクトー東京都区内で約五十年ぶりに海水浴場が復活ーを「手づくり郷土賞(一般部門)」に認定します

平成二十七年一月三十日

国土交通大臣 太田昭宏





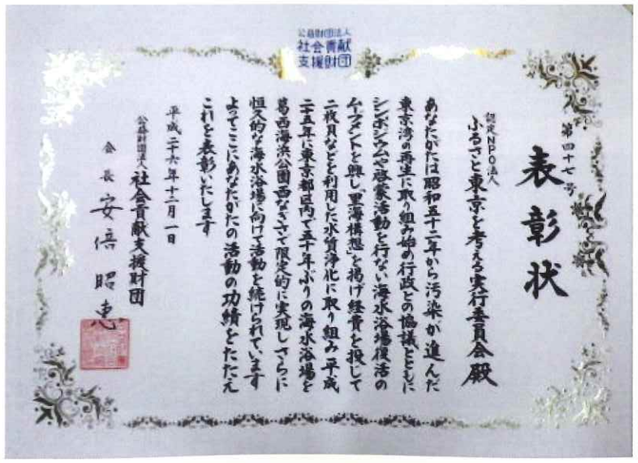

表彰状

第三回 景観まちづくり活動賞
まちづくり活動部門
NPO法人
ふるさと東京を考える実行委員会殿

あなた方は都内で五十年ぶりとなる海水浴場を葛西海浜公園に復活させ ほかにある水辺景観づくりは及ぼされた このことは本区のめざす「江戸川らしさ」を活かした景観まちづくりに大きく貢献するものです その功績を称え今後一層の活躍を期待し表彰します

平成二十六年六月七日

江戸川区長 多ヶ田正見


表彰状

認定NPO法人
ふるさと東京を考える実行委員会 殿

あなたがたは昭和五十二年から汚染が進んだ東京湾の再生に取り組み始め行政との協議とともにシンポジウムや啓蒙活動を行ない海水浴場復活のムーブメントを興し「里海構想」を掲げ経費を投じて二枚貝などと利用した水質浄化に取り組み平成二十五年に東京都区内で五十年ぶりの海水浴場を葛西海浜公園西なぎさで限定的に実現しさらに恒久的な海水浴場に向け活動を続けられています よってここにあなたがたの活動の功績をたたえこれを表彰いたします

平成二十六年十二月一日

公益財団法人 社会貢献支援財団
会長 安倍昭恵





地球ドキュメント
MISSION
東京に海水浴場を取り戻す

NHK・BSの番組「地球ドキュメント　ミッション」

べか舟（龍神丸）の復活　(2009年～)

昔の葛西は海苔養殖が盛んで、べか舟はその時に使われた船です。
私たちは、「美しく輝いていた海に戻そう」という願いをこめて、当会のメンバーの関口理事長、関口政永相談役、松原和夫理事（当時）、恩田銀二郎理事（当時）が建造しました。

この様子は、２０１０年７月５日、NHK・BSの番組「地球ドキュメント　ミッション 」において「東京に海水浴場を取り戻す」（４４分）の内容として放映され、東京都内湾における海水浴復活の大きな後押しとなりました。

このべか舟は「龍神丸」と命名され、葛西海浜公園管理事務所一階に展示され、毎年、夏の里海まつりにおいて、子供たちを乗せています。



べか舟の文献を読む



べか舟建造安全祈願







べか舟乗船体験



すいか割り



紙芝居



里海まつり・夏　(2010年～)

海水浴期間中の休日には、様々な海遊びを体験する「里海まつり・夏」を行っており、毎年１０００人～２０００人、これまで延べ２．５万人が参加しています。

参加者は主に親子連れ、小さな子供にとっては海の楽しさを知る絶好の機会になります。

「海での泳ぎ方教室」では、プールと違い、塩辛い、波もある海という環境での泳ぎ方を教えます。

「べか舟乗船体験」では、漁師が海苔の作業に使っていたべか舟を当会メンバーが復元したものに子供たちを乗せています。「すいか割り」は夏の海辺の風物詩、「投網体験」は、葛西の漁師が昔から使っていた漁具の体験です。「葛西の海に関する紙芝居」は、当会の行っている活動を紙芝居で説明しています。「はぜ釣り道具貸し出し」では小さなお子様に釣りの楽しみを体験してもらっています。「レスキューボード体験」では、ライフセーバーが使っているレスキューボードに乗る体験を行います。「バリアフリービーチ」は、障がい者が海水浴を楽しむイベントです。

「石笛」は、古代日本で作られた石製の楽器で、神道儀式や祭事で用いられています。当会では、海水浴最終日に演奏していただいています。



海での泳ぎ方教室



投網体験



石笛演奏



レスキューボード体験



はぜ釣り道具貸出



バリアフリービーチ

「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」を東京湾再生推進会議に提出 (2018年)

当会では、地元葛西で復活させた「海水浴」をもっと多くの場所で復活させることが重要と考え、東京湾再生官民連携フォーラムのプロジェクトチームとして「海水浴復活PT（ PT長:関口雄三）」を立ち上げ、以下のような政策提案を２０１８ 年１１月２８日に、東京湾再生会議に提出し、政策に役立ててもらえるよう要望しました。

（一部抜粋）

4　東京湾におけるより多くの場所での海水浴体験の提案

葛西海浜公園での事例は、地元NPOによる2日間の海水浴実施が発端となり、「遊泳禁止」ルールに解除条件が設けられ、2013年に東京都が設置した「葛西海浜公園－水浴に関する検討委員会」の提言を受けて、東京都による「海水浴社会実験」が行われ、さらに2014年策定の「東京都長期ビジョン」に基づく2016年からの「海水浴体験」の実施につながっている。

上記経過を踏まえ、東京湾奥の多くの場所での海水浴復活のため、当面の第一歩として、提案を以下に述べる。

1)浜辺を管理する自治体(海水浴の許可の権限等を持っている自治体)は、顔つけ禁止などの条件下で、期間限定的な海水浴を地元市民と協働して実施することを提案する。東京湾再生推進会議は、東京湾再生官民連携フォーラムと共に試行を応援する。その候補地については、東京湾再生推進会議、東京湾再生官民連携フォーラム、東京湾での海水浴復活の方策検討PTが一緒に検討していく。

2)現在海水浴が試行されている浜辺については、その浜辺を管理する自治体は、試行実施日数を増やしたり、遊泳区域を拡大したりするよう働きかけを行い、本格的な海水浴の実施に移行させることを提案する。

3)既に海水浴場※3として開設されている浜辺等については、その浜辺を管理する自治体は、今後も引き続き海水浴が実施できるよう努力することを提案する。

4)海水浴場の水質については、より合理的な判定ができるような基準の改善や予測手法の開発に努める。例えば衛生指標(ふん便性大腸菌群数)については、リアルタイムの測定技術の開発普及に努める。もしくは、その場所に合った予測方法を検討する。

東京湾再生推進会議及び東京湾再生官民連携フォーラムの概要　別紙4　国土交通省

東京湾再生推進会議

○都市再生プロジェクト第三次決定（平成13年12月）に基づき、東京湾の水質改善に向けて平成14年2月に関係省庁及び地方自治体により設置され、平成15年3月に「東京湾再生のための行動計画」（平成15年度～平成24年度）を策定し、総合的な取り組みを推進。
○平成25年5月に「東京湾再生のための行動計画（第二期）」（平成25年度～平成34年度）を策定。民間も含めた多様な関係者の参画による東京湾再生の活動の輪を拡げるため「東京湾再生官民連携フォーラム」の構築を明記。

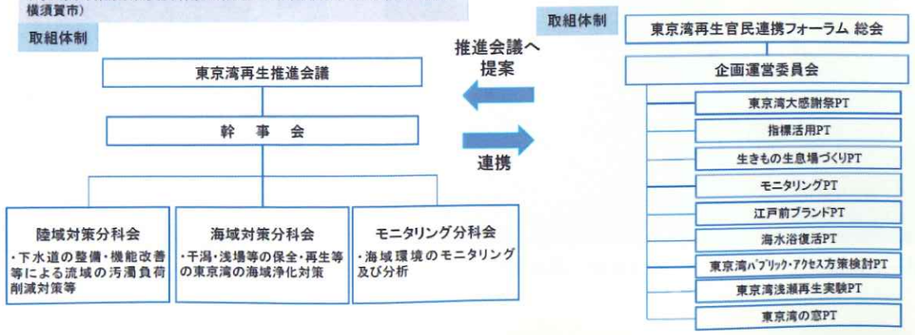
（メンバー）
○関係省庁
内閣府地方創生推進事務局、国土交通省（水管理・国土保全局下水道部、港湾局）、海上保安庁、環境省、農林水産省、林野庁、水産庁
○地方自治体
（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、横須賀市）

東京湾再生官民連携フォーラム

○東京湾再生に向け、多様な主体の参画による議論の活発化・多様化を図るため、平成25年11月に「東京湾再生官民連携フォーラム」が設立。
○フォーラムでは以下の活動を行う。
・東京湾再生に係る課題や科学的知見、再生のための取り組み、ノウハウを共有し、改善方策を検討。
・東京湾の魅力を発掘・創出・発信する取り組みに参画・協働。
・多様な主体の交流の場を提供し、ネットワークを構築する。
・「東京湾再生のための行動計画（第二期）」に基づく取り組みや東京湾再生に向けて検討又は実施すべき事項等を東京湾再生推進会議へ提案。

（メンバー）
○学識者、企業、NPO団体、行政関係者など
○座長　来生 新　放送大学長
○登録会員数　個人会員307名、団体会員122団体（H30.11.1現在）

取組体制





西なぎさのビーチクリーン活動　(2017年～)

子供たちが裸足で遊ぶことで、足の裏から砂浜の感触が直接伝わります。当会は、子供たちが裸足で遊べる海辺を作ることを目的に、２０１３年から開始し、２０１７年からは定期的なビーチクリーンとしました。

具体的には、４月から１１月まで毎月第４日曜日に開催しており、これまで約３５００名が参加しています。

このビーチクリーンの活動は、地元江戸川区にも評価され、２０２４年には江戸川区長から「第３回SDGs環境未来賞」を受賞しました。

２０２６年からは、拾ったカキ殻を細かく砕いて海に戻す活動も始めました。



表彰盾




カキ殻の粉を撒いているところ

海苔わかめ養殖の復活（2010年～）

昔、葛西は海苔の養殖が主産業でしたが、高度経済成長期の工場排水等の影響で、海苔はとれなくなり、１９６２年には、東京都内湾の漁業権が全面放棄され、海苔養殖は行われなくなりました。

当会では、東京湾再生の重要な方策として海苔養殖復活を掲げ、２０１０年度、葛西海浜公園西なぎさで海苔養殖を復活させ、併せて「わかめ養殖」を開始しました。

養殖規模は、徐々に大きくなり、２０２５年には、８柵の海苔養殖を行って、約１．５トンの収穫を行いました。また、わかめも０．５トン程度を収穫しています。

海苔やわかめの養殖は、東京湾で問題となっている「富栄養化」の対策として、また、二酸化炭素を減らす「ブルーカーボン」への対策として位置づけられています。

そして、これらの海苔とわかめは、里海まつり・冬の海苔すき体験や試食に使用され、佃煮として地元の小学校で給食として使われるなど、子供たちに感動を与え、自分たちのふるさととしての「東京」の理解と愛着に貢献していると考えています。





海苔の養殖

種糸をロープにはさんだところ



わかめの養殖



葛西海浜公園東なぎさで自生していた絶滅危惧種の浅草海苔の養殖に成功

昔の葛西では、「地っこ」と呼ばれる「浅草海苔」も養殖されていましたが、今では絶滅危惧種に指定されています。

当会では、葛西海浜公園東なぎさで自生する「浅草海苔」を発見、これを培養し、２０１８年から培養した糸状体から胞子を放出させ、これを海苔網に着生させて養殖することに成功しています。(DNA鑑定済み)



東なぎさ



東なぎさで浅草海苔を発見



浅草海苔糸状体の培養



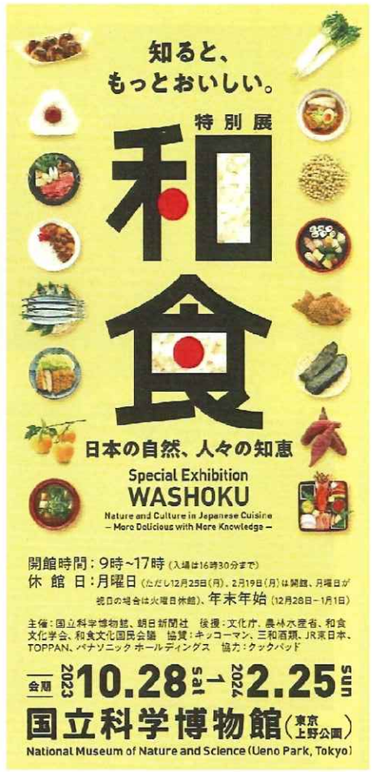
胞子の種付け



生育した浅草海苔

国立科学博物館「和食展」で当会の浅草海苔が展示された　(2023～24)

２０２３年１０月から２０２４年２月にかけて、国立科学博物館で開催された「和食展」において当会が葛西海浜公園東なぎさで発見し、養殖した「浅草海苔」が展示されました。





展示風景



国立科学博物館

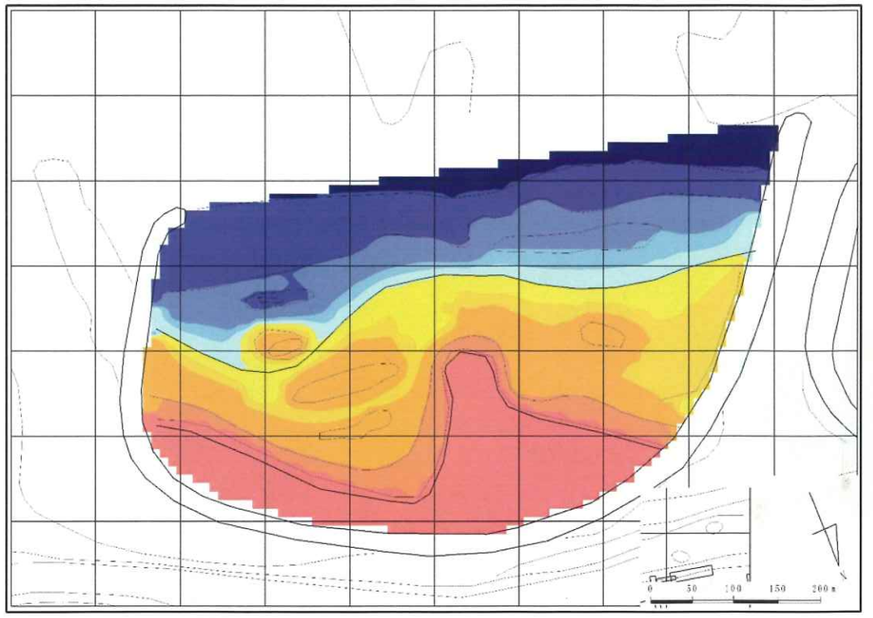


当会が発見し、養殖した浅草海苔

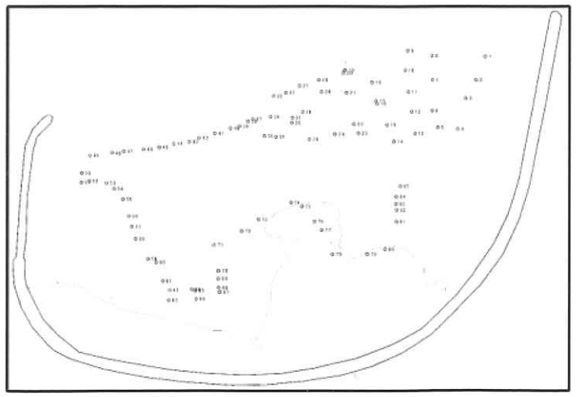
東なぎさ地形調査　(2026年～)

当会では、葛西海浜公園東なぎさで絶滅危惧種の浅草海苔を発見し、これを西なぎさで培養・養殖していますが、本来の生息地である東なぎさで養殖することにより、絶滅に瀕した浅草海苔の保護繁殖に努めることを企画しています。

このため、東なぎさにおける浅草海苔の養殖適地を探すため２０２６年５月１０日に葛西海浜公園東なぎさの地形測量およびヘドロ厚さの簡易調査を行いました。



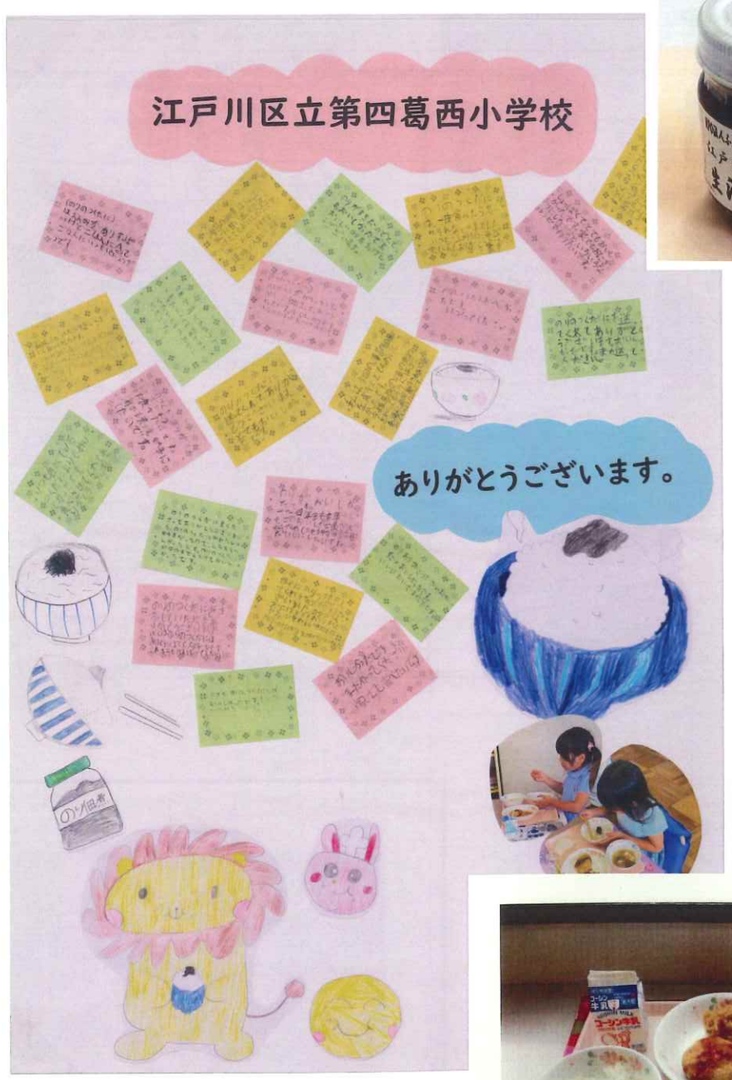




調査地点

西なぎさで養殖した海苔の佃煮千本を江戸川区の小学校に寄付　(2024年～)

子供たちに東京湾再生への意識を高めてもらうため、地元葛西でも海苔を収穫していることを知ってもらいたいと思い、当会が葛西海浜公園で養殖した海苔から佃煮を作り、２０２４年から、毎年一回、江戸川区の小学校へ１０００本の佃煮の寄付を行い、給食で子供たちに食べてもらっています。







里海まつり・冬　(2010年～)

２０１０年度から継続して実施している「里海まつり・冬」では、葛西海浜公園で当会が養殖した「海苔」と「わかめ」を使ったイベントを２月の毎週日曜日に行っています。

この海苔やわかめに触れる「海苔すき体験」と「試食体験」のイベントは参加した人たちに葛西の文化を知ってもらい、「自分たちのふるさとは自分たちで守る」という意識を持っていただくことを目的に実施しています。毎回７００名程度の子供たちと保護者の参加がありこれまで延べ２．３万人が参加しています。




趣旨説明


海苔の紙芝居


海苔わかめタッチ


海苔たたき


海苔すき


海苔干し


焼き海苔


わかめしゃぶしゃぶ


海苔の味噌汁


ミニ海苔簾つくり

里海里山連携プロジェクト（2016年～）

カキは水を浄化する力を持ち、一個のカキが１日に４００リットルの海水を浄化すると言われています。また、カキだけでなくフジツボも水質浄化能力を持っています。

当会では、カキやフジツボを増やす手段として「竹ひび」を使っています。
竹ひびには、びっしりとカキやフジツボが付くからです。
また、古くなって抜いた竹は、焼いて竹炭にし、土壌改良材にします。
なお、竹ひびの竹は、里山で増えすぎて問題となっている竹を使っています。
里山をきれいにして里海もきれいにする。
これが、「里海里山連携プロジェクト」です。

当会では、２０１６年から「竹ひび一人一本活動」として竹ひび設置を続けており、多くの方々の寄付金並びに竹の寄付等により、現在、延べ４６００本を設置しています。



里山での竹の採取



竹ひびの設置



本はまぐり稚貝放流　(2016年～)



本はまぐり稚貝を放流

葛西海浜公園の海は、かつて、あさりを主体とした漁場でしたが、埋め立ての実施により、河川が沖まで伸びて塩分が薄くなり、あさりより低い塩分濃度を好む本はまぐりに適した海となっていましたが、生息は僅かでした。

そこで、葛西海浜公園をはまぐりの浜とするため、本はまぐりの稚貝の放流を継続して行った結果、大きく成長した本はまぐりが来場者によって採られるようになってきています。また、本はまぐり稚貝が発見されることから、再生産も行われていることが推定されています。

２０１７年以降は、本はまぐり稚貝の入手が困難となり、産卵用として親貝を放流していますが、以前のように多くの本はまぐりのとれる浜でなくなっているほか、セミプロ的な大人がはまぐりを採取するため、子供達が大きな本はまぐりを潮干狩りで採ることは少なくなっています。

本はまぐり稚貝放流の経過

		砂粒稚貝	2cm稚貝（キロ）
2010	5月15日		30
	5月29日		60
	7月24日		60
	10月6日		60
2011	5月18日		30
	5月21日		60
	6月18日		60
	11月	2キロ程度	
2012	3月？	2キロ程度	
	5月20日		60
	6月10日		60
2013	5月10日		60
2014			30
2015	4月24日		30
2016	4月6日		30
計			630

大きく育った本はまぐり



二枚貝生息量調査の開始　(2020年～)



2017年



２０１７年頃までは、葛西海浜公園西なぎさには、「しおふき貝」等の多くの二枚貝が生息し、水質浄化に寄与していました。しかし、冬になり貝類を主な食べ物としているスズガモが多数飛来すると、激減することがありました。

このような中、スズガモが２万羽飛来することがラムサール登録要件に合致するという理由だけで、２０１８年に登録されてしまいました。スズガモ1羽が１日１kgの二枚貝を捕食するという千葉県の研究所の報告からすると、２万羽のスズガモは１日に２０トンの二枚貝を食べてしまいます。

スズガモの食害が二枚貝生息量に及ぼす影響を把握するため、当会は２０２０年から二枚貝の生息量調査を開始していますが、1㎡あたりの二枚貝の生息量は、ごく僅かで、しかも２０２４年と２０２５年のように夏場に二枚貝の生息が増えた年でも、スズガモの飛来する晩秋には、大きく減少することがわかってきました。

二枚貝生息量調査結果

	二枚貝生息量	西なぎさ面積	西なぎさ生息量
	kg/ ㎡	㎡	t
2020/8/17	0.003	230,000	0.69
2021/8/21	0.0413	230,000	9.50
2022/8025	0.0276	230,000	6.35
2023/9/17	0.02	230,000	4.60
2024/1/15	0.008	230,000	1.84
2024/3/11	0.03867	230,000	8.89
2024/8/21	0.0624	230,000	14.35
2024/11/14	0.032	230,000	7.36
2024/3/30	0.04647	230,000	10.69
2025/8/22	0.1028	230,000	23.64
2025/11/3	0.0542	230,000	12.47
2026/3/20	0.0149	230,000	3.43



2009年



被覆網等による増殖実験を開始、被覆網内の二枚貝重量が数十倍になることを確認
(2021年～)

砂浜を目合いの細かな網で覆う「被覆網」の実験を２０２１年から実施し、海水浴の終わった時期に「被覆網」を設置し、翌年３月に効果調査を行っています。

その結果、周囲の二枚貝の数十倍もの二枚貝、特にシオフキ貝が生息していることが確認されました。このことから、葛西海浜公園の二枚貝の潜在的な繁殖可能性は極めて高いもののカモやエイ等による食害が阻害要因となっており、食害対策が二枚貝復活の最も大切な課題であり、食害対策により水質浄化が促進され、きれいで豊かな海づくりにつながることが理解されました。



被覆網



被覆網内の貝類調査



大量のシオフキ貝

カキ天然採苗および養殖実験開始　(2023年～)

２０２３年から、カキの天然採苗実験を開始しています。
様々な採苗器で実験した結果、簡単にカキを剥がすことができる「一粒ガキの種苗」を大量に生産できるようになっています。
生産されたカキ種苗をカゴに入れて、養殖を行っており、実入りのいいカキが育っています。



天然採苗された稚ガキ



成長したカキ



養殖カゴ

定置網・釣りによる定期的魚類調査開始　(2023年～)

環境資本主義の基本は、一次産業の復活です。
当会では、東京都内湾での漁業復活を目指しており、「ＮＰＯ漁師宣言」を２０２０年に行い、２０２３年からは定置網や釣りにより、どのような魚種が、いつ、どのくらいとれるのか、定期的な基礎調査を行っています。



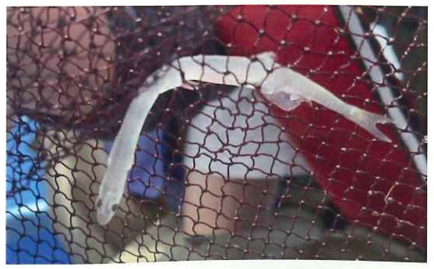
定置網



大きなスズキ



ハゼ



幻の魚シラウオ



釣り調査

西なぎさの「里海センター」建設へ

東京都は、葛西海浜公園にビジターセンターを建設するにあたり、デザイン公募を行った結果、関口雄三理事長案が採用され、２０２５年１２月、採用されたデザインに基づく基本計画が公表されました。

建設は、２０２７年から始まり２０２８年春には完成予定となっています。

当会では、このビジターセンターの名称を「里海センター」とするよう東京都に要請しています。

建通新聞　2022/8/12

都港湾局

葛西海浜公園ビジターセンター デザイン4案を採用

東京都港湾局は、新築する葛西海浜公園ビジターセンター（仮称）のデザインに取り入れるアイデア案を選定した。一般公募のうち、関口雄三氏（江戸川区）による案を基調に、投票数が上位だった他の3案のアイデアも設計に反映することにした。

建設予定地は葛西海浜公園（江戸川区臨海町6丁目）にある西なぎさの「葛西渚橋」の南側。干潟の重要性や魅力を発信するとともに、人々の交流拠点とする方針だ。



基調となるデザイン案

都が作成したビジターセンターのイメージ案に対し、景観や環境への配慮をはじめとしたデザイン面の工夫を設計に取り入れるため、2～3月にアイデアを一般公募。20点の応募があった中で、技術的な観点などから11点に絞って6月1～12日に一般投票を実施し、今回のアイデア案を選んだ。

投票総数は1747票、うち有効票は1688票だった。

各エリアの整備方針

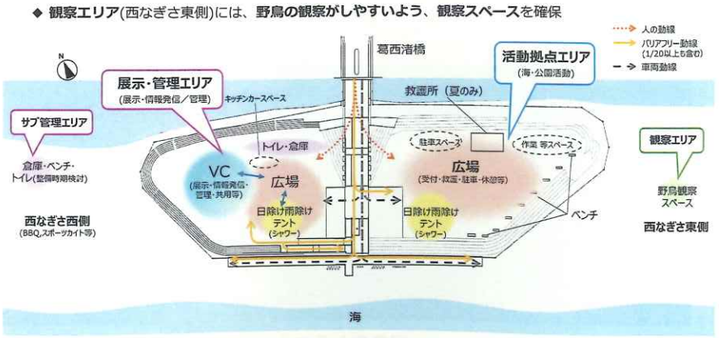
- 立地特性や公園活動団体の活動状況等を踏まえ、**4つのエリア**(活動拠点、展示・管理、サブ管理、観察)を設定
- 渚橋から**海への開かれた視界**を確保するため、ビジターセンター(VC)を橋詰西側に建築規模を抑えて配置
  橋詰部の**動線確保**、橋詰西側から**サブ管理エリアへの動線**検討
- 橋詰の両側に広場を設置
  東側： 団体活動や公園利用者の休憩など、**フレキシブルな利活用**が可能
  西側： VCと広場の**一体的な活用**や公園利用者の交流も可能

※サブ管理エリア(倉庫・ベンチ・トイレ(恒設前期検討))は干潟の利活用の動線を考慮して配置



橋詰部のゾーニング（夏の利用）

- **活動拠点エリア**(橋詰東側)には、**公園活動団体の活動拠点となる広場とテント**を配置
- **展示・管理エリア**(橋詰西側)には、**展示・管理の中心となるVC、トイレ、倉庫、広場、テント等**を配置
- **サブ管理エリア**(西なぎさ西側)には、**西側の利用促進と利便性向上**を図るため、
  倉庫等の一部機能を配置
- **観察エリア**(西なぎさ東側)には、**野鳥の観察がしやすいよう、観察スペース**を確保



※ 東京都以外が整備するものを含む
※ 橋詰部には避雷針を設置

「東京湾再生センター」の設立を目指しての活動経過

私たちは、自らの「海」や「ふるさと」は、自らで守るという考えのもとに、葛西の海で海水浴を復活させました。

次世代の子供たちのために「ふるさと」を一緒に守り、育てていくこと、そのためには、「ふるさと東京」の再生を着実に進めるため、都民、企業、研究者等による強い協力・支援体制を得て、様々な分野から総合的に考える 「東京湾再生センター」の設立が必要であると私たちは考えます。

センターでは、本来、東京湾の持っていた自然環境、第一次産業、文化、景観等の諸機能の再生を具体的かつ実証的に進めるとともに、根本的な課題として首都圏からの環境負荷を軽減し、人口・産業の集中・集積を見直すことにより、持続可能な社会を創造するため都市構造の研究・検討を行うことが必要不可欠です。

当会では、建て替えのため使われなくなる「葛西臨海水族園」の施設を「東京湾再生センター」として活用することを東京都に強く申し入れ、東京都のヒアリングも受けました。

その結果、２０２１年９月に東京都建設局が発表したのが「葛西臨海水族園既存施設利活用の考え方」で、次のように記述されています。



第五章　利活用の基本的考え方について

前章までの内容に加え、「『未来の東京』戦略」など都の方針を踏まえ、葛西臨海水族園既存施設の利活用のコンセプト及び今後の検討の視点と方向性をまとめました。引き続きこれらを踏まえ、検討を進めていきます。

Ⅰ．コンセプト

『葛西臨海公園内に立地し、葛西海浜公園にも接するという特性を生かして、自然に親しみながら環境教育を行う場とするなど、新たな水族園とも有機的に連携しながら既存施設を利活用することにより、周辺一帯の魅力を向上させる。』

私たちは、「東京湾再生センター」が、①葛西の海と一体化したものであること。②自分たちが行っている葛西の活動を、見せるのではなく、水槽を使いながら体験させるものであること。つまり五感で感じさせるものであるべきで、研究機関としてだけではなく、リアルを見せるものであるべきと考えており、東京都建設局の水族園の跡地利用に関する考え方と合致するものとなっています。



葛西の海の生き物たちを展示した里海水族園開設　(2024年～)

東京湾再生のためには、「東京湾再生センター」の設立が必要と当会は考えています。センターは、葛西の海と一体となることが大切で、東京湾再生を目指し、当会が行っている葛西の活動の成果を、見せるのではなく、リアルで体験してもらうため、水槽を使い体験させること、五感で感じるものにしたいと考えています。

このような観点から、葛西海浜公園管理事務所一階において、葛西の海の生物を展示した水槽を設置し、「里海水族園」として公開しています。

水槽内には、スズキ、ボラ、マハゼ、マコガレイ、トラフグ、ギマ、コトヒキなどが飼育されています。

また、「葛西の海の生き物ふれあいイベント」も新たに開始し、人気を博しています。


エビすくい


マコガレイ


里海水族園


マゴチ


スズキ


カニ釣り


アカエイタッチ

東京湾再生に向けて、地域と共生するラムサール条約の提案

東京湾をきれいで豊かな海に再生する。それが当会の目標であり、二枚貝を使った水質浄化実験に取りくんでいます。そこで感じるのが、カキ以外の二枚貝は、その生息量が極めて少ないことです。

アサリやハマグリ、シオフキ貝といった砂底に住む二枚貝の量は、当会が調査した結果、西なぎさ全体でわずか数トン程度であり、２万羽も飛来するスズガモが１日に２０トンの二枚貝を食べてしまうことと比べて、あまりにも少ない生息量と言えます。

ところが、既に被覆網の実験のところで述べたように、スズガモ等の食害を防ぐ被覆網を設置すると、その下には周囲の数十倍の二枚貝が生息します。つまり、東京湾自体の二枚貝の生産ポテンシャルは、非常に高く、これを活用すれば、東京湾は豊かできれいな海になり得るのです。

したがって、スズガモ等の食害対策として、葛西海浜公園に飛来するスズガモを二枚貝生息量に見合ったものにする必要があります。２万羽の飛来数を登録要件とするラムサール登録を、これからはその地域と共生するラムサール条約の登録とすることが望まれます。その地域ごとに特色があり、その地域と共生するラムサール条約としなければなりません。

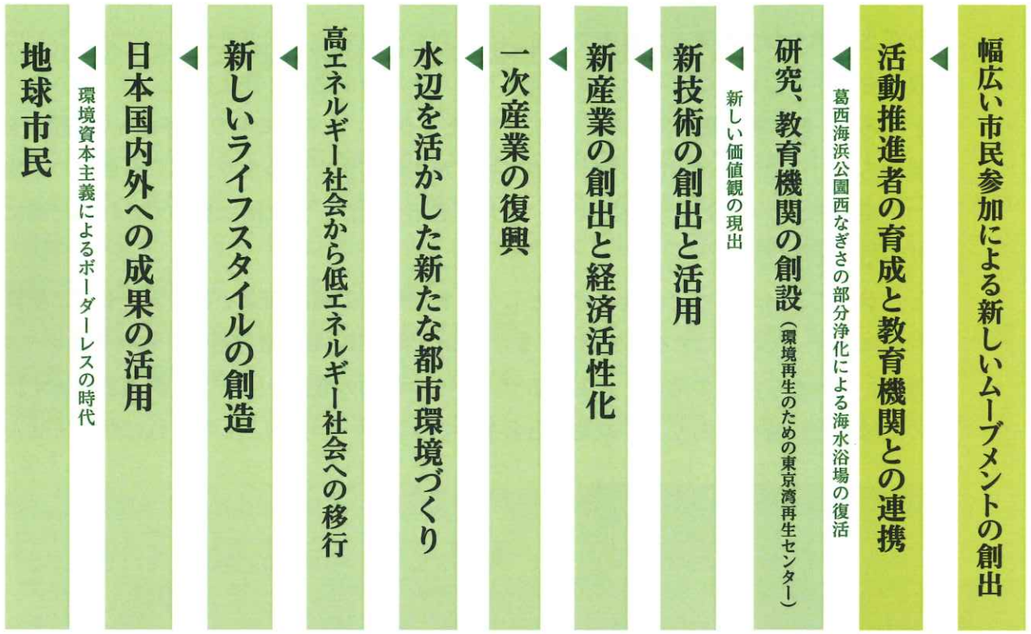

スズガモによるアサリ食害の様子


2018／3／31
鳥の楽園 VS 海の生態
ラムサール条約 国が推進 地元が反発


鳥の糞害も海水浴に悪影響・鳥インフルエンザの心配



「ふるさと東京を考える実行委員会」の今後の活動と課題



「ふるさと東京を考える実行委員会」これまでの活動経過

1977　関口雄三（現理事長）が次世代の子供たちのため「東京湾再生」を決断
（東京湾再生に協力する地元政治家を支援）

1989　葛西海浜公園「西なぎさ」「東なぎさ」が造られる

2001　「ふるさと東京を考える実行委員会」を設立
「ふるさと東京を考える環境フォーラム」を開催
「東京湾をきれいにする10万人署名」活動開始

2003　「東京湾NPO・市民ネットワークフォーラム」を開催（56団体参加、関口雄三が発起人代表）

2006　「東京湾をきれいにする署名」2万人分を東京都知事特別秘書に提出

2007　「マリンガーデニングによる新左近川部分浄化実験」に成功
東なぎさに自生する浅草海苔発見（DNA鑑定済）

2008　「東京湾海水浴場復活プロジェクト」を発表（地元葛西の海に海水浴を取り戻す決意を示す）

2009　「海水浴場復活シンポジウム」を開催（葛西の海に海水浴を取り戻すムーブメントを創出する目的）
「第1回こども海の絵画等コンクール」実施（子供たちに海に対する関心を高めてもらう目的）
「葛西海浜公園西なぎさ水質浄化実験」を開始

2010「里海まつり（夏・冬）」開始
葛西海浜公園（西なぎさ）で、海苔・わかめの養殖開始（海苔文化の復活と水質浄化対策＆地球温暖化対策）
本はまぐり稚貝放流開始（二枚貝による水質浄化）
NHK・BSの番組「地球ドキュメント　ミッション 」で「東京に海水浴場を取り戻す」として放送される

2011　葛西海浜公園西なぎさに水質浄化施設（竹ひび）を設置（竹に付着するカキによる水質浄化）
「第2回葛西海浜公園絵画等コンクール」実施

2012　「里海まつり・夏」において「海水浴」を２日間実施（約50年ぶりの海水浴復活）
東京都が、葛西海浜公園における「遊泳禁止」の看板を「許可なき遊泳は禁止する」に変更

2013　夏休み期間中に、「海水浴」を13日間（土・日）実施

2014　夏休み期間中に20日間の「"海水浴"社会実験」開始 （～2015年）
「第3回葛西海浜公園西なぎさ絵画等コンクール」実施

2016　東京都と事業連携をし、33日間の「海水浴」を実施
里海里山連携プロジェクト（竹ひび１人１本活動）開始（里山で邪魔者扱いされている竹を使って水質浄化）

2017　葛西海浜公園西なぎさ「ビーチクリーン」開始（子供たちが裸足で遊べる海辺づくりを目指して）
「第4回葛西海浜公園西なぎさ絵画等コンクール」実施

2018　「海水浴」の期間を夏休み全期間（43日間）に拡大
「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」を東京湾再生推進会議に提出
葛西海浜公園東なぎさで自生する浅草海苔を培養し、養殖を開始（DNA鑑定済み）
「豊かで美しい東京湾を取り戻すシンポジウム」を開催（50年後を目指して東京湾から発信する）
「ふるさと東京再生」を幻冬舎から出版（東京湾再生センター設立の必要性を提案）

2020　NPO漁師宣言（一次産業の復活が東京湾再生のカギとなる）
二枚貝生息量調査開始（カモによる二枚貝の食害実態把握）

2022　被覆網による二枚貝増殖実験開始（二枚貝による水質浄化を目指して）

2023　カキ天然採苗および養殖実験開始（二枚貝による水質浄化を目指して）
定期的な魚類調査開始（NPO漁師実現のための基礎調査）
国立科学博物館「和食展」で当会が養殖した浅草海苔を展示

2024　海苔の佃煮千本を江戸川区の小学校への寄付を開始（今年で3年目、子供たちに地元の海を好きになってもらう目的）
葛西海浜公園事務所1階で葛西の海の生き物展示を開始（里海水族園・葛西の海の生物多様性を体験する目的）

2026年10月24日　葛西区民館　大ホール
次世代の子供たちのために東京湾を再生し、日本の未来につなげるフォーラム
ーふるさと東京を考える実行委員会25周年記念ー
「東京湾をきれいにする10万人署名」を東京都に提出（2026年8月末10万人達成）

東京湾をきれいで豊かな海に再生するため頑張ってきた役員の方々



相談役	静永純一	理事長	関口雄三
	石塚晴久	副理事長	関口枝芳
	大口眞司	理事	芝田竜文
	関口政永		石原友延
			神田康嗣
顧問	宇田川聡史		関口昌宏
	國安正昭		中正雄一
	久保成人		関口有功
			土屋芳隆
			田辺稔晴
			小島一幸
			坪井佳人
			川口隆之
		監事	山本章
		旧理事	髙松孝俊
			持麾正
			浅野基宣
			恩田銀二郎
			松原和夫
			大石亨二
			保土田洋史
			有村正史

専門委員	斉藤彰吾
	錦戸永光
	江口武人
	関根寛
	岡田正三
参与	長山秀文
	保戸田満隆
	手塚貞雄
	中川剛
	石倉克彦
事務局長	鈴木進
事務局	田中克哲
	秋間哲史

むすび

私は、「大調和＝大和」という文化が日本の遙か昔から受け継がれてきた大切な理念であり、私の基本理念であると考えています。また、「十方世界(宇宙万物)の最善をきす」という言葉も私の座右の銘です。この言葉は、空海（弘法大師）の教えに由来し、自己の限界を超えて他者や社会に貢献する姿勢を示す重要な考え方で、これによって、社会全体の幸福や宇宙の調和を目指すもので、「大調和」につながります。

私の提唱する「環境資本主義」では、「自然や文化等の環境」そのものが「資本」と考えます。豊かな自然が守られていれば、「自然」という「資本」から一次産業により、美味しい米や野菜、果物、海からは江戸前の魚介藻類が毎年、将来に渡り継続して収穫されます。さらに芸術文化としての「建築」や「美術」も豊かな人間性の創出へとつながります。私は、常々、「環境と芸術は等しく大切」と主張してきました。それは、そのどちらもが「環境資本」となり得るからです。

ところが、約５０年前までには、日本の高度経済成長と東京一極集中の中で、核家族化が進み、自然環境と芸術文化は喪失してしまいました。これは、資本主義の「資本」を「金」と勘違いしていることに原因があります。「自然を大切にしない心」が海の生産力低下、地球温暖化を招き、東京一極集中は、ゴミ問題、水不足、空気汚染を招き、核家族化は、日本の「床の間文化」を消失させ、「芸術文化を伝承しない心」が、心の豊かさを失わせるとともに、人口減少の原因ともなっています。

「次世代の子供たちに残したいもの」、それは「環境資本」たる「豊かで美しい自然」と「芸術文化」であり、次の世代に伝えるべき大切な財産であります。そのためには、自分たちの「ふるさと」を「自らで守り育てていくこと」が大切であり、私たち「ふるさと東京を考える実行委員会」は２５年前から東京湾再生に取組み、約５０年ぶりに海水浴を復活させ、さらには、昔、葛西の主要な一次産業であった「海苔養殖」を復活させました。

私たちの次なる目標は、次世代の子供たちのために、東京湾中を美しく豊かにすることです。そのためには、一次産業の復活が欠かせません。また、東京湾再生を都市構造を含め多面的に研究する「東京湾再生センター」の設立も重要です。

私たちの使命は、「自分たちのふるさとは自分たちで守る」という姿勢を次世代の子供たちに活動を通じて伝えていくことが、慈しみの心を育てることになり、結果、大和の精神を伝承していくことになると信じ、これからも行動してまいります。

令和８年　１０月２４日

NPO法人　ふるさと東京を考える実行委員会

理事長　　関　口　雄　三



NPO法人　ふるさと東京を考える実行委員会